



そうあんの里 落語会 開催



3月16日（日）ふれあい倶楽部ホールに於いて開催、36人の参加がありました。たんたん落語会・たんたん落語笑年団の5名の方にご出演いただきました。噺家さんには、それぞれ持ちネタをご披露いただき、会場内の笑いを誘っていただきました。開会時の会長の挨拶の中にもありましたが「笑いは健康の源」にあてはまるものでした。予定時間超過になりましたが楽しい時間を過ごすことができ、また、仲入りの時には、ひまわりカフェのコーヒーもいただきました。

落語会終了後、火災避難訓練を行いました。雨天のため屋内で、中田秀泰さん（町）に消火器の取扱い方法を説明していただきました。避難訓練では慌てず落ち着いて建物の外に出ることなどの注意がありました。



こども青谿書院塾 卒業しました！



3月21日（金）宿南小学校の卒業式を終えた後、卒業生4人と保護者の皆さんの訪問がありました。

6年間、草庵先生の教えを学べたことへ感謝しての訪問です。こども青谿書院塾の塾長からもお祝いのことばがありました。4月からは中学生です。これからも草庵先生の教えを胸に秘め、学業に部活に取り組んでくれることでしょう。



身近で見られる植物④⑥

タチツボスミレ〈スミレ科〉



日本全土に広く分布するスミレです。今の時期から、庭や道端など日当たりの良いところで多く見られます。

花の形が、大工さんの使う墨入れの形に似ているところからスミレと言われる説もあります。

スミレの花の形は基本的には同じ形状をしています。が、花の色や葉の形、花の付き方など違いがありますので、どんなスミレがあるか探して見てください。



喫茶ひまわりからお知らせ

いつもご愛顧ありがとうございます。
今年度も、地域のみな様の憩いの場となります様、楽しい企画を考えていきますので、どうぞよろしくお願いします。

4月21日（月）9時30分～11時30分

4月24日（木）1時30分～3時30分

ほっくりおいしいさつまいも入り蒸しパンを作ってお待ちしています。

どうぞご来店下さい。



お知らせ

4月15日（火）福祉部・文化部・体育部・地域づくり部部会 4月17日（木）理事会

4月27日（日）寄宮・町・川東・川西・門前 日役

4月28日（月）宿南地区自治協議会総会

※6月22日（日）体力測定会の予定です。



草庵先生紹介

日記 74



養父市八鹿町元町にある西村哲二（次）郎の招魂碑。八鹿の町並みが見下ろせる見晴らしの良い所に友人たちによって明治8年に立てられた

濱篤さん作

尊皇攘夷^{じょうい}、そして討幕の行動を起こすべきだと考える北垣晋太郎（後の国道^{くにみち}）に、師である池田草庵は今はそのような行動は起こすべきではないと説いていた。草庵の日記には北垣と繰り返し話し合いをしたことが書かれていたが、次の日記を最後に北垣の名は出なくなった。

「早起き。講義は『孟子』。検読4人。（中略）夜北垣晋太郎来る。話は深夜に及びそれから寝る」（文久3〈1863〉年5月9日）。「北垣と話しをする（後略）」（同月10日）

これが討幕などの行動をすることについての草庵と北垣の最後の話し合いだったのだろう。草庵が再び北垣と話し合いをした、と日記に出てくるのは明治4（1871）年になってからである。

この草庵のもとを去った時の北垣について、明治時代にまとめられた「但馬聖人」（豊田小八郎著）では、次のように書いてある。「北垣は、『幕府は頼りにならない。有志の人たちと力を合わせて、自分の身を捨てても王政復古の道を作り、ついには尊皇攘夷の志を遂げたい』と先生に説明する。先生は大いに驚きいろいろとその非を説き論される。北垣は固く信ずるものがあって、先生の説得にもかかわらず涙をのんで先生の前から辞去した。そして、同じ青谿書院の塾生であった西村哲二郎、進藤俊三郎も北垣と行動を共にした。この二人は北垣の親戚筋にあたり、北垣の説に賛同し、書院を去った。しかし、北垣は他の青谿書院の塾生はあえて誘わなかった」

草庵の門人帳によると、西村哲二郎（哲次郎と書くことも）も進藤俊三郎（後の原六郎）もともに安政2（1855）年に青谿書院に入門している。2人は北垣より7、8歳年下である。進藤は佐中（現・朝来市佐囊佐中）、西村は八鹿（現・養父市八鹿町）の出身である。

書院を出た3人は、各地を回って活動した。そして文久3年10月、江戸幕府の生野代官所（現・朝来市生野町）を襲撃する。いわゆる生野の変にそれぞれの役目を持って参加した。

池田草庵先生に学ぶ会